

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群Ⅱ 人間理解の基礎を学ぶ[身体とこころ/発達と成長] 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点	研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-2-1	いのちの誕生	I	人が胎内に宿り、誕生し、育つことについて、最新の周産期医療における心理的課題を通して考えるとともに、生まれてきた赤ちゃんと家族が出会い、その関係の中で育っていく過程について理解を深める。	永田 雅子(名古屋大学、教授)	◎	54分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-2-2	脳とこころの発達	I	近年、脳や心の初期発達の重要性が指摘されている。脳や心の初期発達の最新知見について学ぶ。また、子どもの脳の負の条件や状況からの回復力、成長力についての知見も得る。	黒田 公美(東京工業大学 生命理工学院、教授)	◎	58分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-2-3	人間のライフ・サイクルと心理社会的成長	I	人間は他者との関係性の中で成長していく。養育者との愛着関係の形成についての総合的な知見が得られるようにする。また、集団の成長促進的要因など、社会的な人間関係の中でのポジティブな側面について理解し、支援に役立てられるようにする。	遠藤 利彦(東京大学、教授)	◎	105分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-2-4	老いと死	I	老人介護施設における老いとホスピスにおける死生観を学び、人生の終末について考察する。在宅医療における終末期の臨床について理解する。	神田橋 宏治(としま昭和病院、医師)	◎	59分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-2-5	身体とこころ	I	身体とこころとは相互に関わりあうことについて理解を深める。こころが身体に影響を及ぼす側面だけではなく、身体がこころに影響を及ぼす側面にも注目する。イントロダクションとして、心身相関を理解することの重要性を指摘する理論(例えば、マインドフルネスやボリヴェーガル理論)を紹介し、さらに臨床現場における実例を用いながら、精神医療及び精神神経学のエキスパートとともに、より実践的に学ぶ。	黒木 俊秀(九州大学、教授) 熊野 宏昭(早稲田大学、教授) 兼本 浩祐(愛知医科大学、教授)	○	82分
		II				
		III				
		IV				
		V				

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群Ⅱ つづき 人間理解の基礎を学ぶ[身体とこころ/発達と成長]【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点		研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-2-6	こころの病とこころの健康を考える	I		「こころの健康と病の境界線とは？」「何のための、誰のための見立てか？」という基本問題を考えることを通じて、精神疾患の診断をめぐる問題や、診断やアセスメントの効用と限界を理解する。発達障害をめぐる多元的アセスメントについて学ぶ。	黒木 俊秀(九州大学、教授) 山下 洋(九州大学病院、特任准教授) 杉山 登志郎(福井大学、客員教授)	△	74分 46分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V					
C-2-7	人間の理解、人間存在の理解	I		こころとは、いのちとは、魂とは、また生きるとは、信じることは、について問うことを通じて、人間の理解、人間存在の理解の基本となる考え方について学ぶ。それを通して、一人ひとりの思いや願い、人生や生活状況を理解する視座を得る。	神庭 重信(九州大学、名誉教授) 島園 進(東京大学、名誉教授)	△	68分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V					
C-2-8	心理的支援の現場における実践的なアセスメント	I		アセスメントの要諦は、要支援者やその関係者に対する支援方針や支援計画の立案に資すること、要支援者の自己理解を促進することである。前者に対応する「アセスメントの内容」(BFSモデル、生態学的アセスメント)と、後者に対応する「検査結果やアセスメントの結果についてのフィードバック」の在り方について学ぶことを通じて、アセスメントと支援の一体性に基づく全人格的・包括的アセスメントについての視点を得る。	熊上 崇(和光大学、教授) 橋本 忠行(香川大学、教授)	○	105分
		II	○				
		III					
		IV	○				
		V					
C-2-9	公認心理師としての自己理解と職能的発達	I		多職種での支援では、多職種チームで協働してアセスメントすることが求められる。その際に必要な公認心理師自らの価値観や実践能力、要支援者からの自分への評価等といった自己理解とその背景となる自己を取り巻く文化の理解の重要性について学ぶ。	岩壁 茂(立命館大学、教授)	◎	57分
		II					
		III	○				
		IV					
		V	○				
C-2-10	ストレスへの向き合い方とその対処	I	○	心理支援の現場では、被支援者のみならず、支援者も、さまざまなストレス状況に置かれる。ストレスの理解やその向き合い方について、マインドフルネスの考え方を取り入れた実践例等をとおして具体的に学ぶ。本研修では、ストレスとは何か、ストレス反応はどのように生じるのかといった、ストレスに関する基礎的な知識を学ぶ。また、ストレスにさらされたときの当事者の認知や習慣などの個人要因に着目し、ストレスに対する抵抗力をより高めるための方法について学ぶ。さらに、リラクセーション、マインドフルネスの具体的な手続について、研修講師の解説・案内のもと、より実践的に学ぶ。	熊野 宏昭(早稲田大学、教授)	◎	63分
		II					
		III					
		IV	○				
		V					